

資料④ 小論文模試の結果から

小論文模試B1以上の生徒の割合(数値は人数, 1学年 240名弱)		
	1年生	2年生
平成15年卒業生	39名	96名
16年卒業生	45名	49名
17年卒業生	59名	125名
(中略)		
現3年生	86名	128名

《参考》評価区分

A: 大変良好	B1: 良好。やや論述力不足
B2: 良好。現代社会への関心不足	C1: 基礎力はある。論述力は標準
C2: 基礎力・論述力は標準	C3: 基礎力・現代社会への関心不足
D1: 基礎力・論述力いま一歩	D2: バランスのとれた教科力が必要。
E: 幅広い教科力が必要。	

資料⑤ 教科国語とGAYA

	教科国語	GAYA
言葉の学び方	現代文＝的確な読解とそれに基づく考察の表現 古典＝現代語とは異なるコードにあることを自覚し、その位相を認識する。 共通＝作品(作者)を他者と認識し、自分を相対化する。	軽やかに、言葉を使いこなす。 例) 詩のボクシング 他者とのコミュニケーションの技法を学ぶ。 例) ディベート、読書会
中心領域	聞く 読む 書く 鍛える	話す 聞く 書く
学習の流れ	問いの発見→問い深め→表現	知る→考える→発表する→話し合う→考え直す→ →表現する
形態	基本的に一斉授業(授業中の発表や生徒作品の批評で成果を共有する)	個人(選択)→グループ(共有・拡散)→ →個人(収斂)
学習の「場」の機能	「読む」ことを中心に基礎基本を習得	競い合い伸びる場の設定 選択による「なりたい自己」の確認
評価の主な主体	教師による評価、生徒間の形成的評価、テストなどの客観的評価	教師・生徒による形成的評価、自己評価、学校以外の人による評価